

北里研究所・東洋医学総合研究所活動報告

所 長 花 輪 壽 彦
担当理事 山 田 陽 城
(WHO 伝統医学研究所協力センター長)
名誉所長 大 塚 恭 男

1) 東洋医学総合研究所創立 30 周年記念行事

平成 14 年 6 月 21 日(金曜日) 10 時より北里白金キャンパスに於いて東洋医学総合研究所の創立 30 周年記念行事が盛大に開催された。「東洋医学における基礎研究の最近の進歩」と「現代医療における東洋医学の役割と教育」について 7 人の招待演者による記念シンポジウムが開催された。記念式典では大村 智北里研究所所長、花輪壽彦東洋医学総合研究所所長の式辞に続き、武見敬三参議院議員、坪井栄孝日本医師会会長よりの祝辞が述べられた。次いで森亘日本医学会会長による記念特別講演が催された。記念特別講演終了後には記念祝賀会が催され、創立 30 周年を記念して「創立 30 周年誌」と「漢方と鍼合冊本」が作成され配布された。

2) 矢数道明・東医研第二代所長御逝去

矢数道明先生(1905~2002)におかれては去る、平成 14 年 10 月 21 日に 96 歳の天寿を全うされ御逝去された。昭和 55 年 10 月 15 日、初代所長・大塚敬節先生の御逝去を受けて、翌日より昭和 61 年 7 月まで約 6 年間、東医研所長の要職を勤められた。診療と研究(基礎研究・臨床研究・医学研究)、教育のすべての面にわたって強いリーダーシップを発揮され、また自ら実践され模範を示された。研究機関相互の連携や国外の研究機関との共同研究の窓口とすべく日本東洋医学連絡協議会(日東医協)を組織された。昭和 61 年には東医研がわが国最初の WHO 伝統医学協力センターに指定され、矢数先生が初代センター長を勤められた。所長退任後も名誉所長として後進の指導の尽力された。

3) 教育・啓蒙活動

北里研究所は北里大学との種々の連携の中で大学院の教育を行っている。平成 13 年 4 月から北里研究所の基礎研究者が中心となり北里大学に付属研究所として北里生命科学研究所を開設し、この中に山田陽城研究部門長を教授として、東医研/基礎研究部メンバーにより構成される和漢薬物学研究室を設置し、研究・教育活動を行っている。

山田陽城部門長は北里大学大学院薬学研究科の兼任教授として 4 名の大学院生に対する教育研究指導を行い、各々薬学修士号を授与した。また、平成 14 年 4 月より同研究所をもとに感染症に特化した独立大学院として感染制御科学府(山田陽城学府長)が文部科学省の認可のもと開設され、同大学院学府の中で山田陽城部門長をはじめとする東医研/基礎研究部からのメンバーが教員(教授 1、助教授 1、講師 3)として 3 名の修士課程 1 年生を迎え「和漢薬利用科学」の教育・研究指導を行っている。一方、平成 13 年 4 月に開設された北里大学大学院医療系研究科の「東洋医学」の専門分野における教育では花輪壽彦所長が連携大学院客員教授(指導教授)となり 13 回の特別講義「東洋医学の考え方と実際」の担当教授として大学院生の教育を行った。平成 15 年 4 月より「東洋医学」専攻の 2 名の大学院生が花輪教授の指導を受ける予定となっている。この他、花輪壽彦所長は平成 9 年より引き続き北里大学客員教授として薬学部(東洋医学概論)および医学部(東洋医学)の講義を、また、山田陽城研究部門長は同大教授として薬学部(生薬学)の講義を担当している。また東医研からは 7 大学に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行っている。

北里研究所では啓蒙活動の一環として、4 月 20 日と 10 月 19 日に白金キャンパスの北里研究所病院において健康に関する市民セミナー「北里研究所公開健康セミナー(第 5 および 6 回)」を開催し、第 5 回では伊藤 剛医長による「ストレス時代の漢方医学」、また第 6 回では鈴木邦彦医員による「漢方入門—冷え症について—」の講演があった。また、9 月 14 日には東洋医学の啓蒙活動として第 2 回東洋医学健康フォーラムが開催され、約 300 名の市民の出席のもと、花輪所長による「暮らしの中の東洋医学」の講演、「女性の漢方・鍼灸」と題したパネルディスカッション、漢方・鍼灸体験コーナーなどが催された。

4) (社)北里研究所・(学)北里学園の法人統合計画

(社)北里研究所と北里研究所創立 50 周年記念事業により、北里研究所の人的物的資産を投入して創設された(学)北里学園(北里大学)の法人統合が両方人の一層の発展のため継続して検討されている。

5) 白金構内整備計画

(社)北里研究所・(学)北里学園による北里白金構内整備計画は着実に進められており、平成14年7月に教育研究B棟(生命研棟)が完成した。この建物にはシンポジウム等開催できる薬学部コンベンションホールが(定員340名)設置されている。

整備計画はすでに緑地整備を残すのみとなり、平成15年2月末に全ての計画が終了する予定である。

6) 第24回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

当研究所は本来の診療業務・研究活動のみならず、東洋医学の教育活動を重要な使命と考えてきた。本セミナーには毎年全国各地から熱心な医学生・研修医が集い、東洋医学の基礎知識の習得と漢方・鍼灸の体験学習を行い、その後の臨床に生かしている。

平成14年度は8月5日から6日間の日程で開催された。受講生は、旭川医科大から九州大までの全国各地から、東洋医学に関心のある学生34名、研修医師3名、さらに今年は、従来から多かった中堅以上の医師の受講希望に応え、12名の医師の参加を受け入れた。講習内容は、漢方・鍼灸の基礎理論から実際の臨床の講義まで、大学では一般に触れることのない医史学の話から最先端の研究の現状まで、広範囲にわたるものであった。講師陣は、花輪所長を筆頭とする当研究所のスタッフに加え、今回も当セミナーの趣旨にご賛同頂いた、先生方に特別講義や実地見学指導という形でご参加頂いた。当研究所顧問の石橋晃先生には「泌尿器科領域の漢方治療」、富山医科薬科大学名誉教授の難波恒雄先生には「世界の民族薬物を求めてチベット・ヒマラヤの薬物」、元ウチダ和漢薬生薬振興室室長の佐橋佳郎先生には「生薬生産地から臨床の現場へ」、それぞれのご専門の素晴らしいご講義を賜わることができた。受講生のみならず、聴講した所員にも大変興味深いものであった。また、受講生の間で最も関心の深い実習は、漢方診療部・鍼灸診療部・薬剤部の各部門で夕方遅くまで熱心に行われ、最終日の質疑応答および懇親会では受講生からの活発な討論がなされた。今年度より講義初日も懇親会を企画し親睦を深める事で、翌日からの講習全体に一体感が生まれた。最終日の土曜日午前には元東京都薬用植物園園長の田中孝治先生による好例の東京都薬用植物園の見学が行われ、6日間のセミナーのしめとなった。

以前は医学生を対象としたセミナーは数少なく、

当研究所はその嚆矢ともいえるべき存在であったが、最近では各施設で同様のセミナーが開催される様になった。昨年4月より大学医学部では漢方医学の知識が必須科目となり、現代医療の中での漢方治療の必要性もさらに大きくなった。医学生の側からすると、漢方医学のスタンダードとは何かという疑問を感じているのが現状である。日本の伝統医学である漢方医学を継承してきた当研究所が北里東医研流のスタイルを明確に提示していく事が使命と考えている。さらに今後も惰性に陥ることなく、斬新な企画を盛り込み、『伝統医学の継承と発展のために』という基本理念の実現に努力していきたい。

7) 国外講演

山田陽城研究部門長は8月上旬に韓国で行われたKSP-JSP-CCTCNM(韓国生薬学会-日本生薬学会-中国伝統天然薬物委員会)ジョイントセミナーにおいて招待講演を行った。また、9月下旬には中国・北京で開催された第2次世界中西医结合大会、10月中旬にマレーシア・クアラルンプールで開催された第4回国際伝統・相補医学カンファレンスおよび11月初旬に金沢で開催された代替相補医学国際シンポジウムにおいて招待講演を行った。また、10月下旬に京都で開催された第18回国際臨床化学会議においては伝統医学に関するセッションのオーガナイザーを務め、招待講演を行った。金成俊薬剤部副部長は3月下旬に韓国・ソウル大学で開催されたアジア諸国のケアリーフォーム国際会議において招待講演を行った。また、永井隆之基礎研究部室長補佐は11月初旬に中国・北京で開催された日中国交正常化30周年記念中日医学大会2002において招待講演を行った。

8) 特殊外来開設

漢方特殊外来として女性のための女性スタッフによる「東洋医学レディースクリニック」を5月に開設にした。この外来は女性が落ち着いた雰囲気なかで気軽に受診できるように、より専門的な診療が受けられるようとの配慮から実施したものでマッサージも取り入れて大変好評である。毎週月曜午後：大坪真紀医師(婦人科系)・毎週火曜日高橋裕子医師(内科系)の2名が外来を担当している。

また、10月よりキッズクリニックを開設した。この外来は小児を専門とした漢方の診療を行っている。毎週土曜日に早崎理香医師が担当している。

I. 診療部門

部門長	石野尚吾
漢方診療部	
所長	花輪壽彦
部長	村主明彦
客員部長	柳澤紘
医長	伊藤剛
医員	鈴木邦彦
医員	早崎知幸
医員	高橋裕子
特別研修医	上田ゆき子
特別研修医	大坪眞紀
特別研修医	米田吉位
特別研修医	玄世鋒
客員医師	佐藤弘
客員医師	渡辺賢治
客員医師	渡邊賀子
客員医師	木下優子
客員医師	頼建守
客員医師	西勝久
客員医師	及川哲郎
客員医師	土橋美子
客員医師	早崎理香

◇漢方診療の活動概要

漢方療法は伝統的な剤型（煎薬・丸薬など）を用いており、近年多くの病院で使われているエキス剤は原則として使用していない。治療は伝統的な随証治療により、病名治療はしていないが、処方新たな活用法も検討している。主な患者は、アトピー性皮膚炎・肝機能障害・高血圧・気管支喘息・慢性関節リウマチ・神経症などである。癌のQOLの向上、種々の難知性疾患などの治療について、臨床的な検討を行っている。併設されている北里研究所病院との連携の下に入院治療も行っている。また、医師に対する研修制度を設けており、原則として部長職以上の外来にてマンツーマンの教育を行っている。特に毎週月曜日の花輪所長外来は、教育外来として常勤医・研修医とともに初診患者約10名を診察している。漢方診療の実際を体験してもらうとともに、処方決定にいたるプロセスや診療のポイントなどを具体的に学べるシステムを作っている。また、平成9年2月より特殊外来として冷え症外来を設け、冷えの悩みを持つ患者さんに血流測定や新陳代謝測定など生理機能検査を行い、各患者の冷えの原因を明確にして、それぞれに合った有効な漢方治療を行っている。最も受診の多いアトピー性皮膚炎については病態生理の解明もふくめ、治療方針のガイドラインの作成をめざしている。予防医学や terminal care の面でも特色のある診療・臨床研究をめざし

ている。また恒温室の完備や、新たな非侵襲的生理検査器械も導入し、漢方・鍼灸治療の評価の客観化をめざしている。

◇総説

- 1) 花輪壽彦：座談会，肝胆脾 44(3):391~409, 2002. 3
- 2) 花輪壽彦：漢方医学の立場から薬剤師への期待，漢方と最新治療，11(2):123~126, 2002. 5
- 3) 石野尚吾：伝統医学セミナー 虚弱者に頻用される処方・補剤 十全大補湯，日本東洋医学雑誌，53(4)，285~296

◇学会報告

- 1) 春山真里，米田吉位，広瀬隆一，森脇龍太郎，堤晴彦：選択的セロトニン再取り込み阻害薬が原因と考えられた重症不整脈の1例，日本薬物中毒学会 関東地方会，東京，2002. 1. 26
- 2) 米田吉位，脇坂裕子，島田肇：運動後に急性腎不全を呈し、過度の運動により繰り返す腎機能障害を起こす低尿酸血症の一例，日本腎臓学会第45回腎臓学会学術総会，大阪，2002. 5. 25
- 3) 花輪壽彦：随証治療の経験から，第53回日本東洋医学会学術総会，名古屋，2002. 5. 31~6. 2
- 4) 花輪壽彦：漢方薬の上手な使い方，第53回日本東洋医学会学術総会，名古屋，2002. 5. 31~6. 2
- 5) 伊藤剛，長谷川愛子，石野尚吾，花輪壽彦：深夜勤務が生体に及ぼす影響と葛根湯の血圧・体温調節作用，第53回日本東洋医学会学術総会，名古屋，2002. 5. 31~6. 2
- 6) 長谷川愛子，伊藤剛，石野尚吾，花輪壽彦：看護学部学生の東洋医学に対する意識調査（第2報），第53回日本東洋医学会学術総会，名古屋，2002. 5. 31~6. 2
- 7) S. Schaefer, M Kajimura, T. Hanawa, M Suematsu and K. Watanabe : Oxidative Stress in NO-Mediated Signaling in Experimental Diabetic Retinopathy. 26TH World Congress of Internal Medicine, Kyoto, 2002. 5. 26~30
- 8) 早崎知幸，花輪壽彦：全身性ジストニアに甘麦大棗湯が有効であった1例，第12回漢方治療研究会，東京，2002. 9. 29
- 9) 木下優子，矢久保修嗣，荒川泰行，花輪壽彦：原因不明の知覚障害に牛車腎気丸が有効であった1例，第12回漢方治療研究会，東京，

2002. 9. 29

- 10) 村主明彦：北里研究所東洋医学総合研究所における東洋医学教育，日本東洋医学会第59回関東甲信越支部学術総会，神奈川，2002. 10. 27

◇特別講演

- 1) 花輪壽彦：医学教育に求められる東洋医学教育，Kampo Medical Symposium 2002，東京，2002. 2. 2
- 2) 花輪壽彦：漢方診療20年の経験から，第7回三河湾臨床漢方セミナー，愛知，2002. 2. 10
- 3) 伊藤剛：ストレス時代の漢方医学，北里研究所第5回公開健康セミナー，東京，2002. 4. 20
- 4) 石野尚吾：教育講演 ライフサイクルと東洋医学（特に女性のQOLについて），第53回日本東洋医学会学術総会，名古屋，2002. 6. 2
- 5) 伊藤剛：暮らしの中に東洋医学を，烏森住区住民会議スポーツ講座，東京，2002. 7. 11
- 6) 伊藤剛：看護に役立つ東洋医学的ケア，静岡県立大学看護学部講習会，静岡，2002. 7. 20
- 7) 伊藤剛：舌診の解明，日本良導絡自律神経学会第395回良導絡研修会教育講演，東京，2002. 7. 28
- 8) 花輪壽彦：腹診概説および実技指導，日本東洋医学会卒前教育セミナー，2002. 8. 21
- 9) 山田陽城、石野尚吾、村主明彦：パネルディスカッション「女性と漢方・鍼灸」，東洋医学健康フォーラム，東京，2002. 9. 14
- 10) 花輪壽彦：「おなか」と「こころ」，ヤクルト中央研究所特別講演，2002. 10. 18
- 11) 鈴木邦彦：「漢方入門」—冷え症について—，第6回公開健康セミナー，2002. 10. 19
- 12) 花輪壽彦：これからの漢方医学の役割と課題，第28回日本東洋医学会北陸支部例会特別講演，金沢，2002. 10. 27
- 13) 花輪壽彦：漢方医学教育の実際と課題，第28回日本東洋医学会九州支部会学術総会特別講演，鹿児島，2002. 11. 17
- 14) 石野尚吾：女性のための漢方，第114回石川漢方談話会，金沢，2002. 11. 17
- 15) 伊藤剛：消化器疾患の病態と漢方治療，日本東洋医学会関東甲信越支部2002年度群馬県支部会教育講演会特別講演，群馬，2002. 11. 23
- 16) 伊藤剛：ストレス性疾患に対する漢方治療，

平成14年度北里大学薬学部卒後教育セミナー講義，東京，2002. 11. 30

- 17) 村主明彦：気をつけたい漢方薬の使い方，平成14年度北里大学薬学部卒後教育セミナー講義，東京，2002. 11. 30

◇著書

- 1) 花輪壽彦，村主明彦，伊藤剛ら，編著：漢方の診察法，入門漢方医学，社団法人日本東洋医学会学術教育委員会，2002. 12. 10

◇研究報告書

- 1) 花輪壽彦，村主明彦，小曾戸洋，伊藤剛，金成俊，渡辺賢治：21世紀の東洋医学教育の基盤整備，平成10年～13年度文部省科学研究費補助金基盤整備(B)(2)研究成果報告書第1部教科書編，(2002. 3)
- 2) 花輪壽彦，村主明彦，小曾戸洋，伊藤剛，金成俊，渡辺賢治：21世紀の東洋医学教育の基盤整備，平成10年～13年度文部省科学研究費補助金基盤整備(B)(2)研究成果報告書第2部資料編，(2002. 3)
- 3) 花輪壽彦，村主明彦，小曾戸洋，伊藤剛，金成俊，渡辺賢治：21世紀の東洋医学教育の基盤整備，平成10年～13年度文部省科学研究費補助金基盤整備(B)(2)研究成果報告書第3部文献目録編，(2002. 3)

◇その他

- 1) 花輪壽彦：漢方医学と代替医療，治療，84(1):8，2002. 1
- 2) 花輪壽彦：優しい効き目が安心漢方の基礎講座，月刊ウォーキングマガジン，2:67～76，2002. 2
- 3) 花輪壽彦：漢方のまとめ，漢方薬・生薬認定薬剤師講座，東京，2002. 2. 17
- 4) 花輪壽彦：座談会「臨床能力向上のための漢方入門」，漢方医学，26(1):2～3，2002. 3
- 5) 花輪壽彦：胆石・胆嚢炎，都医ニュース172，2002. 3
- 6) 花輪壽彦：高脂血症，都医ニュース173，2002. 4
- 7) 花輪壽彦：漢方概論，漢方薬・生薬認定薬剤師講座，大阪，2002. 4. 14
- 8) 花輪壽彦：漢方各論(1)(2)，漢方薬・生薬認定薬剤師講座，大阪，2002. 5. 19
- 9) 花輪壽彦：漢方薬の正しい理解，毎日新聞夕刊，2002. 7. 31
- 10) 花輪壽彦：漢方を知ろう！，CCJAPAN，9:6～21，2002. 8

- 11) 花輪壽彦：慢性腎炎・ネフローゼ，都医ニュース 176, 2002. 12
- 12) 花輪壽彦：漢方医学から見た高血圧，NHK きょうの健康，12：52～55, 2002. 12
- 13) 村主明彦：過敏性腸症候群，メディアあさひかわ，P119, 2002. 4
- 14) 村主明彦：咽喉頭異常感症，メディアあさひかわ，P127, 2002. 5
- 15) 村主明彦：尋常性・瘡，メディアあさひかわ，P127, 2002. 6
- 16) 村主明彦：頭痛，メディアあさひかわ，P125, 2002. 7
- 17) 村主明彦：アトピー性皮膚炎，メディアあさひかわ，P143, 2002. 8
- 18) 村主明彦：虚弱児，メディアあさひかわ，P121, 2002. 9
- 19) 村主明彦：子宮筋腫，メディアあさひかわ，P124, 2002. 10
- 20) 村主明彦：尋常性乾癬，メディアあさひかわ，P110, 2002. 11
- 21) 村主明彦：風邪，メディアあさひかわ，P118, 2002. 12
- 22) 伊藤剛：「冷え症特集」冬をポカポカ過ごす術，NHK生活ほっとモーニング，2002. 1. 23
- 23) 伊藤剛：ストレスと漢方医学，The Kitasato No. 36 教養講座、教育広報社，P14-15, 2002. 10
- 24) 伊藤剛：もしかして低体温？冷え症？「冷え」に強い体を作ろう！，自然と健康 日本ジャーナル出版，11：19-21, 2002
- 25) 鈴木邦彦：冷え症，日本経済新聞，2002. 8. 17
- 26) 鈴木邦彦：夏の冷え症，ゆほびか，2002. 9

I-2. 鍼灸診療部

部長(兼務)	石野尚吾
客員部長(兼務)	柳澤紘
医師(兼務)	伊藤剛
主任	石原武
主任	今泉護
主任	小山基
非常勤鍼灸師	掛川一五

◇研究概要

- 1) 下記の疾患を中心とする諸疾患に対する鍼灸療法の臨床的効果と影響に関する検討と解析：変形性膝関節症、帯状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、慢性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、尿失禁。
- 2) 疼痛に関する臨床的研究。

- 3) 鍼灸治療の免疫機能への影響の検討。
- 4) 鍼灸治療による皮膚への生理学的作用の研究

◇診療業務などの活動概要

当鍼灸診療部は、現在完全予約制で、月曜日から土曜日まで診療を行い、毎週1回、新患について臨床的な検討を継続的に行っている。また10月には患者さんや地域の方々を対象とした「東洋医学健康フォーラム」が当所で開催され、鍼体験コーナーでは積極的な質問があり、好評であった。

◇総説

- 1) 柳澤紘：総合医療施設における鍼灸の併用、漢方と鍼灸，第52回日本東洋医学会学術総会学会シンポジウム，日本東洋医学雑誌，53(3)，144～152，168～169 (2002)
- 2) 石野尚吾：漢方と鍼灸—効果的な併用法—，第52回日本東洋医学会学術総会学会シンポジウム，座長，日本東洋医学雑誌，53(3)，131，167～170 (2002)
- 3) 柳澤紘：冷え症の鍼灸治療，痛みを伴わない日本式の鍼で身体にやさしく治療を施す，ホスピタウン，(119)，70～71 (2002)

◇学会

- 1) 石野尚吾，柳澤紘：鍼灸治療デモンストラーション，第26回国際内科学会議，京都，2002. 5. 26～30
- 2) 今泉護，伊藤剛，石原武，小山基，掛川一五，柳澤紘，石野尚吾：腰痛に対する鍼灸治療の経時的治療効果判定の試み，第53回日本東洋医学会学術総会，名古屋，2002. 6. 1
- 3) 石原武，伊藤剛，柳澤紘，石野尚吾：鍼灸治療が有効であった複合性局所性疼痛症候群(CRPS) type I の1考察，第51回全日本鍼灸学会学術大会，茨城，2002. 6. 9
- 4) 小山基，伊藤剛，柳澤紘，石野尚吾：東西医学の連携診療における鍼灸治療の意義，一脳内海綿状血管腫症例より一，第51回全日本鍼灸学会学術大会，茨城，2002. 6. 8

◇著書

- 1) 石原武：看護大事典，医学書院，分担執筆，2002. 11. 15

◇その他

- 1) 石野尚吾：鍼灸よろず相談，日本経済新聞，毎週火曜日夕刊連載

II. 薬剤部門薬剤部

部門長(兼務)	山田陽城
副部長	金成俊
主任	緒方千秋
副主任	坂田幸治
薬剤師	今野初子
薬剤師	西郡秀文
薬剤師	本間文子
薬剤師	水澤深雪
薬剤師	中村恵子
薬剤師(非常勤)	伊東美貴
薬剤師(非常勤)	山岡法子
薬剤師(研修生)	坂本壮一郎
薬剤助手	新井奈美

◇研究概要

薬剤部では、生薬調剤を基本としており、研究所における漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報告している。

今年度の研究内容を以下に示す。

- 1) 煎じ薬のアルミ包装及び自家製剤の臨床応用の検討
- 2) 頻用生薬のパラメーターの調査
- 3) 入院患者情報カードの作成とデータベース化
- 4) 東医研処方集に記載されている処方の原典調査と読み下しの作成入力
- 5) 漢方薬局マニュアル・実習書改訂版の作成
- 6) 古典に基づく漢方薬の特殊な煎出方法の意義
- 7) 三次元HPLCによる漢方製剤の品質評価
- 8) 電話問い合わせ内容のデータベース化
- 9) 漢方製剤煎出条件の相違による服用量の検討
- 10) 漢方薬の服薬指導ビデオの改訂版作成
- 11) 生薬標本の整理とデータベース化
- 12) 初診患者における漢方薬と西洋薬の服薬についての調査

◇薬剤業務の活動内容

昨年3月新棟移転に伴うシステムの変化による薬剤業務は特に問題もなく順調に執り行われている。今年度は新たに患者サービスの一環として、約1年間の準備期間を経て、煎じ薬の「煎じ代行業務」を開始した。身体が不自由、多忙などの理由により煎じられない患者には好評である。

一方、漢方薬と雖も医薬品であるため、漢方薬の調剤におけるリスクの見直しを行った。煎じ薬の重量及び内容鑑査を、二重鑑査から三重鑑査の

実施を試みている。調剤に若干多くの時間を要するが、医薬品の安全性が高まり、調剤過誤防止に繋がっている。

◇教育活動

帝京大学薬学部、共立薬科大学の東洋医学概論の講義に講師を派遣している。春期と夏期の年2回行っている2週間病院実習に北里大学薬学部、帝京大学薬学部から薬学生を受け入れた。当薬局のような漢方薬の実習が行える薬局は少ないため、今年度も希望者が増加した。実習終了後に茶話会を開き、学生とスタッフの率直な意見交換を行っており、当薬剤部の実習を履修した薬学生は東洋医学に対する興味がさらに高まり、実習で得た知識を将来に役立てたいと考えているようである。また北里大学薬学部3年生の半日実習も実施している。

一方、毎年夏に行われている医学生のための夏期セミナーでは、例年通り漢方薬に触れる機会の少ない医学生各自が漢方薬の調剤を行い、実際に煎じ薬を煎じて服用する薬局実習を行った。

また9月に開催された「東洋医学健康フォーラム」では、漢方薬の産地や調剤方法の見学・漢方薬の説明・試飲を行い、今回新たにオリジナル漢方茶の試飲コーナーを設け、受講者からは大変好評であった。

◇学会報告

- 1) 水澤深雪, 坂田幸治, 武樋初子, 本間文子, 金成俊, 山田陽城: 古典に基づく漢方薬の特殊な煎じ方についての検討—膠飴—, 第53回日本東洋医学会学術総会, 名古屋, 2002. 5. 31~6. 2
- 2) 西郡秀文, 坂田幸治, 緒方千秋, 金成俊, 山田陽城: 漢方製剤の煎出条件の違いによる服薬量の実際, 第53回日本東洋医学会学術総会, 名古屋, 2002. 5. 31~6. 2
- 3) 金成俊, 山田陽城, 花輪壽彦: 和漢薬の調剤におけるリスク—ヒューマンエラーの観点から—, 第19回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8. 31~9. 2
- 4) 金成俊, 緒方千秋, 坂田幸治, 山田陽城: 漢方薬(主に煎じ薬)の調剤エラーの調査と防止についての検討, 第35回日本薬剤師会学術大会, 愛媛, 2002. 10. 26~27

◇招待講演

- 1) 金成俊: 日本漢方医学の現況及び展望, アジア諸国のケア—リフォー—ム国際会議, ソウル大学校医学大学保険大学院, 2002. 3. 20

～21

2) 金 成俊：漢方薬の適切な服薬指導，東京都女性薬剤師会生涯教育研修会，2002. 6. 9

◇著 書

1) 金 成俊：入門漢方医学（共同執筆），167～172，日本東洋医学会(2002)

◇その他

1) 金 成俊：小柴胡湯の処方解説，漢方と最新治療，11(4)，370～378，(2002)

2) 金 成俊，小曾戸 洋，真柳 誠，山田陽城：古方における調剤方法の整理・分類，第6回漢方研究奨励賞受賞，東亜医学協会，2002. 9

3) 緒方千秋，坂田幸治，金 成俊：構成生薬の写真を用いた漢方薬の情報提供，北里アイデア賞受賞，2002. 6

Ⅲ. 研究部門

研究部門長 山 田 陽 城（兼担）

Ⅲ-1. 基礎研究部

部長（兼担） 山 田 陽 城（北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室教授）

副部長（兼担） 清 原 寛 章（北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室助教授）

室長補佐（兼担） 永 井 隆 之（北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師）

室長補佐（兼担） 松 本 司（北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師）

主任研究員（兼担） 矢 部 武 士（北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師）

研究員（兼務） 金 成 俊
（薬剤部副部長）

研究員（兼務） 坂 田 幸 治
（薬剤部副主任）

研究員（兼務） 西 郡 秀 文
（薬剤部薬剤師）

客員研究員 布 目 慎 勇

留学研究員 Cecilie Sogn（ノルウェー、オスロ大学薬学部、平成14年4-7月）

研究生 宗 形 佳 織（平成14年3月修了）

研究生 荒 井 裕 美 子（平成14年3

月修了）

研究生 伊 藤 直 樹（北里大学大学院・薬学研究科院生）

研究生 高 橋 哲 史（北里大学大学院・薬学研究科院生）

研究生 田 口 育 枝（北里大学大学院・薬学研究科院生）

研究生 西 山 加 奈 子（北里大学大学院・薬学研究科院生）

研究生 川 口 久 美 子

研究生 江 森 道 子（北里大学大学院・感染制御科学府院生）

研究生 内 田 太 一（北里大学大学院・感染制御科学府院生）

研究生 金 光 月 花 子（北里大学大学院・感染制御科学府院生）

◇研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行っている。特に漢方処方の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めている。研究テーマは「漢方処方の薬効解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」の3つに大別される。

今年度の研究テーマのうち「漢方処方の薬効とその作用物質の解明」では、1) 小青竜湯の気道炎症モデルに対する作用の解析、2) 香蘇散の抗うつ作用の解析、3) 十全大補湯などの補剤の鼻腔粘膜免疫系に対する作用の解析、4) 十全大補湯および構成生薬中の腸管免疫調節物質の解明について検討した。

「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、1) 柴胡ペクチン性多糖のBリンパ球幼若化活性発現におけるシグナル伝達および多糖受容体の解明、2) 和漢薬中の薬理活性ペクチン様多糖に対するヒト血清中の多糖認識抗体の解析、3) 和漢生薬中の薬理活性多糖の消化管からの吸収の解析、4) 和漢生薬中の薬理活性 Rhamnogalacturonan II の化学的解析について検討した。

「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」では 1) 半夏の経鼻接種インフルエンザワクチンに対する経口アジュバントの作用機序の解析、2) 和漢薬に含まれる新規な抗感染症物質の解明について研究を行った。また、日タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、清原寛章助教授がタイ国マヒドン大学およびチュラロンコン大学を訪問し、植物素材中の薬理活性多糖の研究法に関する

共同研究を行った。また、基礎研究部ではこの他、フランス、ノルウェー、オランダ、中国、台湾、韓国などの国外及び国内の大学や研究機関との種々の共同研究も進めている。

◇原 著

- 1) T. Matsumoto, X.-B. Sun, T. Hanawa, K. Ishii and H. Yamada: Effect of anti-ulcer polysaccharide fraction from *Bupleurum falcatum* L. on the healing of gastric ulcer induced by acetic acid in rats, *Phytotherapy Res.*, 16: 91~93 (2002)
- 2) T. Sunazuka, T. Shirahata, K. Yoshida, D. Yamamoto, Y. Harigaya, T. Nagai, H. Kiyohara, H. Yamada, I. Kuwajima and S. Omura: Total synthesis of pinellic acid, a potent oral adjuvant for nasal influenza vaccine. Determination of the relative and absolute configuration, *Tetrahedron Letters*, 43: 1265~1268 (2002)
- 3) H. Hisha, U. Kohdera, M. Hirayama, H. Yamada, T. Iguchi-Uehira, T.-X. Fan, Y.-Z. Cui, G.-X. Yang, Y. Li, K. Sugiura, M. Inaba, Y. Kobayashi and S. Ikehara: Treatment of Schwachman syndrome by Japanese herbal medicine (Juzen-Tai ho-To): Stimulatory effects of its fatty acids on hemopoiesis in patients, *Stem cells*, 20: 311 ~ 319 (2002)
- 4) M. H. Sakurai, H. Kiyohara, Y. Nakahara, K. Okamoto and H. Yamada: Galactose-containing polysaccharides from *Dictyostelium mucoroides* as possible acceptor molecule for cell-type specific galactosyl transferase, *Comp. Biochem Physiol. Part B*, 132: 541~549 (2002)
- 5) T. Nagai, H. Kiyohara, K. Munakata, T. Shirahata, T. Sunazuka, Y. Harigaya and H. Yamada: Pinellic acid from the tuber of *Pinellia ternata* Breitenbach as an effective oral adjuvant for nasal influenza vaccine, *Int. Immunopharmacol.*, 2: 1183~1193 (2002)
- 6) H. Kiyohara, T. Matsumoto and H. Yamada: Intestinal immune system modulating polysaccharides in a Japanese herbal (Kampo) medicine, *Juzen-tai ho-to*, *Phytomedicine*, 9: 614~624 (2002)
- 7) K. Ootoguro, A. Ishiyama, H. Ui, M. Kobayashi, C. Manabe, G. Yan, Y. Takahashi, H. Tanaka, H. Yamada and S. Omura: *In vitro* and *in vivo* antimalarial activities of the monoglycoside polyether antibiotic, K-41 against drug resistant strains of *Plasmodia*, *J. Antibiot.*, 55: 832 ~ 834 (2002)
- 8) T. Yabe, H. Tsuchida, H. Kiyohara, T. Takeda and H. Yamada: Induction of NGF synthesis in astrocytes by onjisaponins of *Polygala tenuifolia*, constituents of Kampo (Japanese herbal) medicine, *Ninjin-Yoei-To*, *Phytomedicine*, in press
- 9) T. Shirahata, T. Sunazuka, K. Yoshida, D. Yamamoto, Y. Harigaya, T. Nagai, H. Kiyohara, H. Yamada, I. Kuwajima and S. Omura: Total synthesis and adjuvant activity of all stereoisomers of pinellic acid, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, in press

◇招待講演

- 1) 山田陽城：漢方薬の薬効と作用成分の解明に向けて、東洋医学総合研究所創立 30 周年記念シンポジウム、東京、2002. 6. 21
- 2) H. Yamada: Scientific elucidation on action mechanism and active ingredients of Kampo medicines, *KSP-JSP-CCTCNM Joint Seminar 2002*, Daejeon (Korea), 2002. 8. 6~9
- 3) H. Yamada: Scientific elucidation on action mechanism of Kampo medicines -Recent progress-, *The 2nd World Integrative Medicine Congress*, Beijing (China), 2002. 9. 22~24
- 4) 山田陽城：漢方薬の粘膜免疫調節作用および脳機能改善作用、第 12 回漢方治療研究会、東京、2002. 9. 29
- 5) H. Yamada: Evidenced practice in traditional and complementary medicine [Case of Kampo (Japanese herbal) medicines], *The 4th International Traditional/Complementary Medicine Conference & Exhibition*, Kuala Lumpur (Malaysia), 2002. 10. 14~16
- 6) H. Yamada: Scientific elucidation on action mechanism of Kampo medicines -Recent progress-, *The 18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine*, Kyoto, 2002. 10. 20 ~25
- 7) T. Nagai, H. Yamada: Effect of Kampo (Japanese Herbal) medicines and their

active ingredients through airway mucosal immune systems, China-Japan Medical Conference 2002, Beijing (China), 2002. 11. 3~6

- 8) H. Yamada: New Scientific approach for natural medicines (Examples of Kampo medicines), The International Symposium on Alternative and Complementary Medicine, Kanazawa, 2002. 11. 8~10
- 9) 山田陽城：漢方薬の免疫系に対する作用と作用成分，第5回日本補完代替医療学会学術集会，金沢，2002. 11. 9~10
- 10) 清原寛章：粘膜免疫機構に対する漢方方剤の作用と作用成分，第1回日本東洋医学会・和漢医薬学会合同シンポジウム，東京，2002. 12. 7~8

◇総説

- 1) 山田陽城：薬理作用と活性成分からみた漢方薬の薬効解明，日本小児東洋医学会誌，18，46~50 (2002)

◇学会発表

- 1) 清原寛章，金光花月子，松本 司，山田陽城：和漢薬由来の薬理活性ペクチン様多糖の蛍光標識体を用いた消化管からの吸収動態の解析法の検討，日本薬学会第122年会，千葉，2002. 3. 26~28
- 2) 永井隆之，古畑公夫，鯉坂勝美，山田陽城：新規合成フラボン配糖体の抗インフルエンザウイルス活性，日本薬学会第122年会，千葉，2002. 3. 26~28
- 3) 松本司，西山加奈子，矢部武士，山田陽城：柴胡のペクチン性多糖によるB細胞活性化へのNF- κ Bの関与，日本薬学会第122年会，千葉，2002. 3. 26~28
- 4) 荒井裕美子，永井隆之，矢部武士，竹田忠紘，山田陽城：小青竜湯の肺NGF産生を介した気管支喘息モデルマウスに対する効果の検討，日本薬学会第122年会，千葉，2002. 3. 26~28
- 5) H. Kiyohara, T. Matsumoto and H. Yamada: Structural diversity and immunomodulating activity of rhamnogalacturonan II from leaves of *Panax ginseng* C. A. Meyer, 21st International Carbohydrate Symposium Cairns (Australia), 2002. 7. 6~13
- 6) 矢部武士：加味温胆湯の抗痴呆作用に関する研究 -薬学基礎の立場から-，第19回和漢医薬学会大会，和漢医薬学生・若い研究者の集い，千葉，2002. 8. 31~9. 1
- 7) 清原寛章，宗形佳織，永井隆之，花輪壽彦，山田陽城：十全大補湯および補中益気湯の薬効の比較—上気道粘膜免疫系に対する作用について—，第19回和漢医薬学会大会，千葉，2002. 8. 31~9. 1
- 8) 永井隆之，荒井裕美子，江森道子，布目慎勇，矢部武士，山田陽城：気道炎症モデルマウスに対する神経成長因子を介した小青竜湯の作用機序の検討，第19回和漢医薬学会大会，千葉，2002. 8. 31~9. 1
- 9) 伊藤直樹，永井隆之，布目慎勇，花輪壽彦，山田陽城：香蘇散料の薬効発現機序の解明-抗うつ様効果に関する検討-，第19回和漢医薬学会大会，千葉，2002. 8. 31~9. 1
- 10) 布目慎勇，清原寛章，矢部武士，山田陽城：加味温胆湯構成生薬の組み合わせによる遠志成分の組成変化，日本生薬学会第49年会，福岡，2002. 9. 5~6
- 11) 矢部武士，佐柳友規，Joan P Schwartz，山田陽城：色素上皮由来因子 (PEDF; pigment epithelium-derived factor) によるグリア細胞活性化メカニズムの解析，第75回日本生化学会大会，京都，2002. 10. 13~1
- 12) A. Takanohashi, T. Yabe, J. P. Schwartz: PEDF induces the production of chemokines by rat microglia, Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting, Florida, Orlando (U. S. A.), 2002. 11. 2~7
- 13) T. Yabe, T. Sanagi, J. P. Schwartz, H. Yamada: PEDF stimulates expression of inflammatory-related genes in glial cells: roles of NF- κ B and AP-1, Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting, Florida, Orlando (U. S. A.), 2002. 11. 2~7

◇その他

- 1) 山田陽城：漢方薬の薬効発現機構の解明 -基礎研究の立場から-腸管機能と免疫研究会学術集会，東京，2002. 1. 19
- 2) 矢部武士，Joan P. Schwartz，山田陽城：色素上皮由来因子 (PEDF) の神経保護作用の作用メカニズムの解析、及びグリア系細胞に対する作用の検討，第15回「遺伝子とその周辺」研究会，東京，2002. 8. 2~3
- 3) 山田陽城，石野尚吾，村主明彦：パネルディスカッション「女性と漢方・鍼灸」，東洋医学健康フォーラム，東京，2002. 9. 14
- 4) H. Yamada: Action mechanism and active ingredients of Kampo medicines on

immunological system, Beijing University, 2002. 9. 24

5) H. Kiyohara: Research strategy for pharmacologically active polysaccharides from plant origins, Machidol University, 2002. 10. 30

6) T. Nagai: Effects of Kampo (Japanese herbal) medicines and their active ingredients through airway mucosal immune system, 日本臨床中医薬学会訪華団学術報告会, Beijing (China) 2002. 11. 4

Ⅲ-2. 臨床研究部

臨床研究部長	花 輪 壽 彦 (兼任)
主任研究員	日 向 須美子 (専任)
研究員	遠 藤 真 理 (専任)
臨床検査技師	竹 内 ゆかり (専任)
鍼灸研究室室長	石 野 尚 吾 (兼務)
研究員	柳 澤 紘 (兼務)
	石 原 武 (兼務)
	今 泉 護 (兼務)
	小 山 基 (兼務)
漢方研究室室長	村 主 明 彦 (兼務)
研究員	伊 藤 剛 (兼務)
	鈴 木 邦 彦 (兼務)
	早 崎 知 幸 (兼務)
	高 橋 裕 子 (兼務)
	大 坪 眞 紀 (兼務)
	米 田 吉 位 (兼務)
	玄 世 峰 (兼務)

◇研究概要

臨床研究部は、漢方診療および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

- (1) 「気剤の総合的研究」
- (2) 「薬価非収載の漢方方剤の有用性」
- (3) 「冷え性」の病態解明と漢方治療について」
- (4) 「癌の転移における漢方薬の効果とそのメカニズム」
- (5) 「エストロゲン受容体に対する漢方薬の作用機序」
- (6) 「疼痛に対する鍼治療の効果について」
- (7) 「冷え性の鍼灸治療」
- (8) 「鍼の皮膚への効果」
- (9) 「変型性膝関節症の鍼灸治療」

(10) 「食物アレルギーに対する漢方方剤の有用性」

食物アレルギーの乳幼児に対して漢方薬が有用な例が多く見られる。そこで、マウスを用いてアレルギーを引き起こすメカニズムの解明と漢方方剤の有用性を検討している。

(11) 「漢方薬の血液凝集、凝固に対する作用～特に西洋薬との相互作用に関して～」

経口抗凝固薬と漢方薬との相互作用を検討することは、生命にかかわるという点から重要であると考えられる。効果的に併用するために、実験動物を用いて漢方薬の血液凝集、凝固に対する面などから薬効を検討している。

(12) 「腸管の機能と免疫研究会」

昨年度に引き続き、第2回研究会が 2002. 11. 2 に開催され、「食物アレルギーに対する漢方方剤の有用性」のテーマで発表を行った。

◇原著論文

- 1) T. Matsumoto, X. B. Sun, T. Hanawa, H. Kodaira, K. Ishii and H. Yamada: Effect of the Antiulcer Polysaccharide Fraction from *Bupleurum falcatum* L. on Healing of Gastric Ulcer Induced by Acetic Acid in Rats, *Phytother. Res.*, 16:91-93 (2002)
- 2) G-B. Jin, K. Watanabe, T. Nakada, K. Santa, H. Kato, T. Matsumoto, K. Toriizuka and T. Hanawa: The effects of Sai-ko-keishi-to and Juzen-taiho-to on Th1-Th2 balance in different age mice, *Journal of Traditional Medicines*, 19(1):7-14 (2002)
- 3) Tsutomu Nakada, Kenji Watanabe, Tsukasa Matsumoto, Kazuki Santa, Kazuo Toriizuka, Toshihiko Hanawa: Effects of orally administered Hochu-ekki-to, a Japanese herbal medicine, on contact hypersensitivity caused by repeated application of antigen, *International Immunopharmacology*, 2:901-911 (2002)
- 4) Tsutomu Nakada, Kenji Watanabe, Jin GB, Kazuo Toriizuka, Toshihiko Hanawa: Effect of ninjin-youei-to on Th1/Th2 type cytokine production in different mouse strains. *Am J Chin Med*, 30(2-3):215-23 (2002)

◇学会発表・研究会発表

- 1) 遠藤真理, 早崎知幸, 松本司, 花輪壽彦, 山田陽城: 抗原の反復投与により発症する食物アレルギーモデルマウスの作製と漢方薬の

薬効評価への応用, 第 19 回和漢医薬学会大会, 千葉, 2002. 8. 31~9. 1

2) 早崎知幸, 遠藤真理, 松本司, 花輪壽彦, 山田陽城: 抗原の反復投与により発症する食物アレルギーモデルマウスの作製と漢方薬の薬効評価への応用, 第 2 回腸管機能と免疫研究会学術集会, 東京, 2002. 11. 2

3) 日向須美子, 川崎ナナ, 日向昌司, 花輪壽彦, 早川堯夫: HGF により誘導される細胞分散と c-Met のチロシンリン酸化に対する各種ガングリオシドの効果および c-Met への結合解析, 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002. 10. 1~3

Ⅲ-3. 医史学研究部

部長	小曾戸	洋
客員部長 (北里研究所)	真柳	誠
主任研究員	町	泉寿郎
客員研究員	友部	和弘
研究助手	森田	久美子
顧問 (東医研)	多留	淳文
客員研究員	猪飼	祥夫
客員研究員	浦山	きか
客員研究員	小林	健二
客員研究員	篠原	孝市
客員研究員	舘野	正美
客員研究員	戸出	一郎
客員研究員	長野	仁
客員研究員	宮川	浩也
客員研究員 (米国)	Andrew Goble	
客員研究員 (米国)	Alexander Bay	
無給研究員 (中国)	郭	秀梅
無給研究員 (中国)	邵	沛
無給研究員 (中国)	陶	恵寧
無給研究員	原田	俊介
無給研究生	上村	元願
無給研究生 (中国)	魯	紅梅

◇研究概要

当研究部の前身は 1983 年に設置された医史学研究室で、1992 年 12 月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文献の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に活用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、

各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。また収蔵した古医学史料 (典籍・文書類) の補修・目録作成には鋭意尽力し、医学文化財の保存につとめている。

◇原 著

- 1) 戸出一郎: 医学館における医学考試について (一), 日本医史学雑誌 48, 3~30, (2002)
- 2) 戸出一郎: 医学館における医学考試について (二), 日本医史学雑誌 48, 185~204, (2002)
- 3) 浦山きか: 『黄帝蝦蟇經』臨模本の価値, 鍼灸 osaka64, 87~98, (2002)

◇総 説

- 1) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(1) はじめに・凡例・内経之属, 漢方の臨床 49, 40~60, (2002)
- 2) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(2) 難経之属, 漢方の臨床 49, 283~289, (2002)
- 3) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(3) 傷寒之属, 漢方の臨床 49, 422~442, (2002)
- 4) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院の医薬古典籍(4) 総論之属 (上), 漢方の臨床 49, 711~716, (2002)
- 5) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院の医薬古典籍(5) 総論之属 (下), 漢方の臨床 49, 839~849, (2002)
- 6) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院の医薬古典籍(6) 内科之属・外科之属・五官科之属, 漢方の臨床 49, 972~980, (2002)
- 7) 真柳誠: 『本草品彙精要』ローマ本・大塚本・ベルリン本の成立関係, 漢方の臨床 49, 1207~1220, (2002)
- 8) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院の医薬古典籍(7) 婦産科之属, 漢方の臨床 49, 1365~1372, (2002)
- 9) 真柳誠: 台湾訪書志 I - 故宮博物院の医薬古典籍(8) 児科之属・痘疹之属, 漢方の臨床 49, 1507~1515, (2002)
- 10) 町泉寿郎: 伊沢蘭軒とその一族の遺墨—伝存資料による『伊沢蘭軒』の検討—, 外 70, 206~281, (2002)
- 11) 多留淳文: 証を考える—九味栴榔湯について (上) (下), 漢方研究 730, 11~17, 731, 25~31, (2002)

◇著 書

- 1) 長春中医学院医古文教研室・北里東医研医史学研究部編：『本草経考注』（上）（下），学苑出版社，1～1160，(2002)
- 2) 長春中医学院医古文教研室・北里東医研医史学研究部編：『素問考注』（上）（下），学苑出版社，（上）1～849（下）1～773，(2002)
- 3) 小曾戸洋：漢方医学の歴史（医史学），『入門漢方医学』，日本東洋医学会，7～16，(2002)
- 4) 小曾戸洋：日本における中国医学，蔡毅編『日本における中国伝統文化』，勉誠出版，186～201，(2002)
- 5) 小曾戸洋：中国医学在日本，蔡毅編『中国伝統文化在日本』，中華書局，178～190，(2002)
- 6) 小曾戸洋：『宗田文庫目録・図版篇』編集・執筆，国際日本文化研究センター，1～24・1～109，(2002)
- 7) 橋本昭彦・町泉寿郎ほか：昌平坂学問所日記 [II]（共編），(財) 斯文会，5～428，(2002)
- 8) 猪飼祥夫：『生命倫理事典』，「はり師」「きゅう師」項目執筆，太陽出版，(2002)
- 9) 宮川浩也：劉振民ら編，荒川緑・宮川浩也編訳『医古文の基礎』，東洋学術出版社，1～315，2002
- 10) 長野仁：野尻佳与子編集『鍼のひびき灸のぬくもり—癒しの歴史』，「書物からみた鍼灸の歴史—内藤記念くすり博物館の鍼灸書」，内藤記念くすり博物館，43～55 (2002)
- 11) 長野仁・大浦慈観：『皆伝・入江流鍼術—〔入江中務少輔御相伝針之書〕の覆刻と研究—』，「〔入江中務少輔御相伝針之書〕解題」，六然社，94～106，(2002)

◇シンポジウム・講演会

- 1) 真柳誠：水戸藩の医学と医療、茨城大学公開講演会「水戸藩と中国医学—水戸医学の先駆性と医療ネットワーク」，水戸，2002. 2. 14～16
- 2) 小曾戸洋：書物からみた中国の伝統医学—漢方，大東文化大学講演会，東京，2002. 3. 4
- 3) 長野仁：書物からみた中国の伝統医学—鍼灸，大東文化大学講演会，東京，2002. 3. 4
- 4) 町泉寿郎：蔵書からみた大塚敬節の学問と人，日本東洋医学会関東甲信越支部平成 13 年度第 2 回東京都部会，東京，2002. 3. 10
- 5) 町泉寿郎：江戸医学館の成り立ち，東京臨床中医学研究会講演会，東京，2002. 3. 22
- 6) 小曾戸洋：附子・烏頭の歴史的変遷，第 53 回日本東洋医学会第 15 回伝統医学臨床セミ

ナー，名古屋，2002. 5. 31

- 7) 多留淳文：証を考える—九味檳榔湯について，第 53 回日本東洋医学会学術総会，第 9 回東洋医学ランチョンセミナー，名古屋，2002. 6. 2
- 8) M. MAYANAGI : New Findings on a Medieval Medical Manuscript、5th International Congress on Traditional Asian Medicine, Universitat Halle-Wittenberg, Halle, Germany, 2002. 8. 18～24
- 9) 町泉寿郎：(シンポジウム)江戸医学館の業績，1)江戸医学館の歴史とその意義，日本東洋医学会平成 14 年度第 1 回東京都部会，東京，2002. 10. 6
- 10) 戸出一郎：(シンポジウム)江戸医学館の業績，2)江戸医学館の医師たち，日本東洋医学会関東甲信越支部平成 14 年度第 1 回東京都部会，東京，2002. 10. 6
- 11) 小曾戸洋：(シンポジウム)江戸医学館の業績，3)多紀元簡・元堅の功績，日本東洋医学会関東甲信越支部平成 14 年度第 1 回東京都部会，東京，2002. 10. 6
- 12) 友部和弘：刺絡の歴史—江戸期の刺絡名家紹介，第 4 回東京刺絡鍼法講習会，東京，2002. 10. 13
- 13) 町泉寿郎，高倉一紀，高橋章則：(パネル・セッション)書物の学と思想の学と，2002 年度日本思想史学会大会，仙台，2002. 10. 20
- 14) 長野仁：刺絡の歴史—大塚敬節氏旧蔵「生天堂鍼灸経」を中心に，第 3 回大阪刺絡鍼法講習会，大阪，2002. 12. 22

◇学会発表

- 1) 町泉寿郎，戸出一郎：江戸医学館の臨床記録，日本医史学会 5 月例会，東京，2002. 5. 25
- 2) 町泉寿郎，小曾戸洋，石野尚吾：菊地玄蔵『難経釈義』の考察，第 53 回日本東洋医学会，名古屋，2002. 6. 1
- 3) 小曾戸洋，町泉寿郎，篠原孝市，石野尚吾：『黄帝内経太素』巻 21・27 の原本，第 53 回日本東洋医学会，名古屋，2002. 6. 1
- 4) 友部和弘・石野尚吾：中神琴溪と郭志遠の刺絡，第 53 回日本東洋医学会，名古屋，2002. 6. 1
- 5) 猪飼祥夫：張家山漢墓漢簡『引書』に見る気について，日本医史学会関西支部春季大会，京都，2002. 6. 2
- 6) 府和隆子・片貝真寿美・小曾戸洋・谿忠人：生薬の使用頻度から『脾胃論』の特徴を探る，第 19 回和漢医薬学会，千葉，2002. 8. 31

- 7) 町泉寿郎：吉益流の「天命説」とその批判をめぐって，(無窮会)第9回東洋文化談話会例会，東京，2002. 9. 8
- 8) 町泉寿郎，花輪壽彦，寺澤捷年：松平定信の古方派批判，第103回日本医史学会，新潟，2002. 9. 28～29
- 9) 友部和弘・小曾戸洋：三輪愿『薬真途異語』と三輪試『大和医語』，第103回日本医史学会，新潟，2002. 9. 28～29
- 10) 小曾戸洋・真柳誠：飛鳥京庭園跡出土木簡「西州続命湯」の出典について，第103回日本医史学会，新潟，2002. 9. 28～29
- 11) 真柳誠：ハノイ現存古医籍の特徴，第103回日本医史学会，新潟，2002. 9. 28～29
- 12) 郭秀梅・加藤久幸：古典医書における字から詞への変化例，第103回日本医史学会，新潟，2002. 9. 28～29
- 13) 宮川浩也：『雲庵抄』について，第103回日本医史学会，新潟，2002. 9. 28～29
- 14) 小曾戸洋：馬王堆医書続報，第3回鍼灸医学史研究会，岐阜，2002. 11. 3
- 15) 浦山さか：中国医学における婦人科の変遷，第3回鍼灸医学史研究会，岐阜，2002. 11. 3
- 16) 猪飼祥夫：納西族につたわった『黄帝蝦蟇経』と思われる文献について，第3回鍼灸医学史研究会，岐阜，2002. 11. 3
- 17) 猪飼祥夫：張家山漢墓漢簡『引書』にみる導と引について，日本医史学会関西支部秋季大会，大阪，2002. 11. 10
- 18) 小曾戸洋：和漢薬の来歴に関する新史料，日本医史学会・日本薬史学会・日本獣医史学会合同12月例会，東京，2002. 12. 21
- 立効散，漢方医学26, 80, (2002)
- 7) 真柳誠：漢方一話 処方名のいわれ 105—清心蓮子飲，漢方医学26, 88, (2002)
- 8) 真柳誠：漢方一話 処方名のいわれ 106—猪苓湯合四物湯，漢方医学26, 142, (2002)
- 9) 小曾戸洋：漢方一話 処方名のいわれ 107—三黄瀉心湯，漢方医学26, 190, (2002)
- 10) 真柳誠：漢方一話 処方名のいわれ 108—柴苓湯，漢方医学26, 234, (2002)
- 11) 小曾戸洋：漢方一話 処方名のいわれ 109—胃苓湯，漢方医学26, 38, (2002)
- 12) 真柳誠：漢方一話 処方名のいわれ 110—茯苓飲合半夏厚朴湯，漢方医学26, 280, (2002)
- 13) 小曾戸洋：漢方一話 処方名のいわれ 111—茵陳五苓散，漢方医学26, 284, (2002)
- 14) 小曾戸洋：目でみる漢方史料館(163) 丹波敬三・緑川父子の神農画・賛，漢方の臨床49, 2～4, (2002)
- 15) 長野仁：目で見る漢方史料館(164)，和久田叔虎の筆録した『暘谷斎医弁』の刺絡，漢方の臨床49, 186～188, (2002)
- 16) 小曾戸洋：目でみる漢方史料館(165) 狩野芳崖「龍に鍼をする馬師皇」図，漢方の臨床49, 322～324, (2002)
- 17) 長野仁：目で見る漢方史料館(166)，幻の入江流鍼術書の出現，漢方の臨床49, 458～460, (2002)
- 18) 町泉寿郎：目でみる漢方史料館(167) 伊藤大助の家伝資料，漢方の臨床49, 602～604, (2002)
- 19) 真柳誠：目でみる漢方史料館(168) 臟腑神農像，漢方の臨床49, 738～740, (2002)
- 20) 真柳誠：目でみる漢方史料館(169) 孫思・史蹟の碑文に大塚・矢数先生の伝，漢方の臨床49, 866～868, (2002)
- 21) 真柳誠：目でみる漢方史料館(170) 北京大学所蔵の日本旧蔵古医籍三点，漢方の臨床49, 1002～1004, (2002)
- 22) 真柳誠：目でみる漢方史料館(171) 『本草品彙精要』のローマ本・大塚本・ベルリン本，漢方の臨床49, 1130～1133, (2002)
- 23) 真柳誠：目でみる漢方史料館(172) 金沢文庫の医学古文書，漢方の臨床49, 1258～1260, (2002)
- 24) 大塚恭男・矢数圭堂・小曾戸洋・真柳誠・花輪壽彦：矢数道明先生を偲ぶ，漢方の臨床49, 1633～1657, (2002)
- 25) 小曾戸洋：矢数道明先生を偲ぶ—その足跡，日本医史学雑誌48, 657～660, (2002)
- 26) 町泉寿郎：文庫めぐり(16) 鶯軒文庫，日本医

◇プロシーディング

- 1) 小曾戸洋 他：21世紀における傷寒論の意義，日本東洋医学雑誌52(4・5), 409～442, (2002)

◇その他

- 1) 小曾戸洋：古医書のはなし(1) 現存する伝統医学古書の数，伝統医学5, 143, (2002)
- 2) 真柳誠：漢方一話 処方名のいわれ 100—温経湯，漢方医学25, 272, (2002)
- 3) 小曾戸洋：漢方一話 処方名のいわれ 101—牛車腎気丸，漢方医学25, 292, (2002)
- 4) 小曾戸洋：漢方一話 処方名のいわれ 102—人参養榮湯，漢方医学26, 23, (2002)
- 5) 真柳誠：漢方一話 処方名のいわれ 103—小柴胡湯加桔梗石膏，漢方医学26, 40, (2002)
- 6) 小曾戸洋：漢方一話 処方名のいわれ 104—

- 史学雑誌 48, 66, (2002)
- 27) 宮川浩也：文庫めぐり(17) 文教大学越谷図書館池田文庫, 日本医史学雑誌 48, 80, (2002)
- 28) 真柳誠：文庫めぐり(18) 龍谷大学大宮図書館, 日本医史学雑誌 48, 218, (2002)
- 29) 真柳誠：文庫めぐり(19) 高知県立牧野植物園牧野文庫, 日本医史学雑誌 48, 574, (2002)
- 30) 小曾戸洋：(紹介) 『大同薬室文庫蔵書目録』, 日本医史学雑誌 48, 121~123, (2002)
- 31) 猪飼祥夫：(紹介) 加納喜光『風水と身体—中国古代のエコロジー』, 日本医史学雑誌 48, 313~314, (2002)
- 32) 町泉寿郎：吉益家門人録(四), 日本医史学雑誌 48, 226~258, (2002)
- 33) 真柳誠：大英図書館のスタイン医薬文書, 日本医史学雑誌 48, 106~108, (2002)
- 34) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(27), 活 44, 27~30, (2002)
- 35) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(28), 活 44, 43~46, (2002)
- 36) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(29), 活 44, 58~61, (2002)
- 37) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(30), 活 44, 75~78, (2002)
- 38) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(31), 活 44, 92~95, (2002)
- 39) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(32), 活 44, 107~110, (2002)
- 40) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(33), 活 44, 122~127, (2002)
- 41) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(34), 活 44, 140~143, (2002)
- 42) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(35), 活 44, 155~158, (2002)
- 43) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(36), 活 44, 172~175, (2002)
- 44) 町泉寿郎：日本の名医 500 傑(37), 活 44, 188~191, (2002)
- 45) 町泉寿郎：山脇東洋の称号, 日本医事新報 4100, 95~96, (2002)
- 46) 猪飼祥夫：「龍谷大学蔵写字台文庫の医書類」, 医譚 78, 23~25, 日本医史学会関西支部, (2002)
- 47) 猪飼祥夫：張家山漢墓漢簡『引書』に見る気について, 医譚 78, 30~32, 日本医史学会関西支部, (2002)
- 48) 長野仁：「近世日本鍼灸流派の系統図」について, 経絡治療 149, 30~36, (2002)

◇研究助成

平成 14 年度文部科学省助成科学研究費補助金(新規)特定領域研究(2)「江戸のモノづくり」に関する公募研究(14 年度 160 万円・15 年度 90 万円), (代表者：小曾戸洋)「江戸時代医学・本草学資料

の整理と研究」

◇留学研究員に関する報告

郭 秀梅(中国・長春中医学院講師)、陶 惠寧(中国・中医研究院助教授)、魯 紅梅(中国・白求恩医科大学卒)を順天堂大学から非常勤留学研究員として迎えた。

米・オレゴン大学からアンドリュー・ゴープル助教授を客員研究員として迎えた。

郭は第 103 回日本医史学会(新潟)において、「古典医書における字から詞への変化例」の学会発表を行った。

米・スタンフォード大学からアレキサンダー・ベイ氏を留学研究員として迎えた。

◇教育活動

本年度、小曾戸は筑波大学理療科・茨城大学人文学部・東京衛生学園専門学校、町は二松学舎大学大学院、友部は筑波技術短期大学に、非常勤講師として出講し、東洋医学概論や日中医学文献を講じた。

◇学術活動

小曾戸は前年に引き続き第 18 期日本学術会議第 7 部会法医社会医学研究連絡委員をつとめ、また日本医史学会の常任理事・編集委員、日本東洋医学会の理事・編集幹事、武田科学振興財団杏雨書屋運営協議委員として活動。町は無窮会専門図

書館の図書専門委員・評議員，日本医史学雑誌の編集委員をつとめるなど、対外的学術活動にも従事した。